

委員会レポート

行政視察報告



養豚施設建設予定地での説明会のもよう

市政調査会

同会の例会を過日に開催、調査項目として稲荷下第二地区土地区画整理事業の進捗状況を役所内で説明を受け、引き続き平成21年度事業実施予定地等を現地調査した。最初に附馬牛町大洞地区と土淵町飯豊地区に建設予定の、大規模養豚施設地を調査し、施設概要・規模や畜産公害対策等につ

いて、AST・進出する北日本JA畜産(株)より説明を受け、その施設からも運び込まれる予定の遠野市堆肥センターの稼働状況も調査した。当堆肥センターは、JAより市に管理運営が譲渡、耕畜農家のかけはしとして一体となった取り組みが要求される。また、

その畜産の要となる畜産総合センター建設地に移動し、着工している家畜診療所(東南部共済組合)を外見調査説明を受けた。次に市街地に移り、市営住宅整備事業材木町地区の建設現場も調査進捗状況の説明を受け、最後に稲荷下第二地区土地区画整理事業の進捗状況を調査視察したが、遠野市中心市街地活性化基本計画が認定され、市街地活性化やインフラ整備の期待

が高まっている。今回の現地調査は多項目にわたっての調査となり、遠野市の経済、環境やライフライン等を調査でき、議会の果たす役割と責任の重さを肌で感じるものとなり、市政発展に向け更に活動を強化して行く事が必要と思われる。



公聴広報 特別委員会

平成21年3月25日から26日までの2日間、宮城県利府町及び同県岩沼市を行政視察した。
利府町の人口は、20年3月末日現在で約3万3千人である。

同町では、議会広報編集特別委員会を組織し、その委員長は副議長が当て職として担当することになっている。また、議会広報づくりを議会ぐるみで行っており、議会広報づくりのマニュアルまで作成していた。当市にとっても非常に参考となる資料であることから、そのマニュアルを頂戴してきた。

紙面づくりの基本や考え方が当市のそれとはまるで違った印象を受けた。議会広報クリニクを毎年受講し、たゆまない新たな紙面づくりに挑戦していた。
岩沼市は、3月末日現在で約4万4千人であるが、人口は微増を続け、仙台市のベッドタウンとなっている。
同市での議会広報

編集の特徴は、すべてデータを電子化するという点である。マイクロソフト社のワードで文書をつくりそれをやり取りするのである。つまり、議員は全員ワードで文書を作成し提出する必要があるということである。



宮城県利府町での研修風景